FRI Business Incubation News

2006年6月26日

「グリーン物流パートナーシップ」

グリーン物流パートナーシップとは

1997年に「地球温暖化防止京都会議」が開かれ、温暖化防止を目的とする「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」が議決されました。いわゆる「京都プロトコル」です。物流分野のCO_2排出量削減は一企業の努力だけでは限界があります。荷主と物流業者の連携した取り組みが大切なので、2005年4月に国土交通省と経済産業省が関連団体と一緒に「グリーン物流パートナーシップ会議」を立ち上げました。

物流分野はどのくらいの比重か

わが国の物流は年間57億トン、それを運ぶために全国で110万台のトラックが走っています。日本のCO_2排出量は年間13億トンほどですが、その内20%が運輸部門、さらに貨物は8.2%を占めています。

仕事はどんな内容か

グリーン物流パートナーシップ会議では、CO_2削減を推進するために荷主と物流事業者の取り組みを支援したり（補助金を交付）、CO_2算出手法の検討、さらには消費者を含めた意識向上にむけた広報普及活動などを行っています。

FRIは事務局として、広報活動案の策定、議論の取りまとめ等、活動の下支えの役割を果たしています。

みんなで地球にやさしい物流を
Green Partnership

問い合わせ先　富士通総研：

亀廼井（カメノイ）（金融コンサルティング事業部Tel:03-5401-8386）
池田（公共コンサルティング事業部Tel:03-5401-8396）
高田（研究開発部Tel:03-5401-8394）

解　説

CO_2排出量はどうやって測るのか

改正省エネ法では3つの算定方法が採用されています。

①燃料法‥燃料使用量(Kℓ)　×　CO_2排出係数
　⇒　精度を重視した計測法‥自社便、貸切便など

②燃費法‥輸送距離(Km)／燃費(Kℓ)　×　CO_2排出係数
　⇒　燃料使用量の把握が難しい場合‥共同配送、一般混載など

③改良トンキロ法‥輸送トンキロ(t×Km)　×
　改良トンキロ法CO_2排出原単位
　⇒　トラックのみが対象で、係数に荷物の積載率が織り込まれる

以上の方策には、燃費の向上や積載率の向上という狙いが込められています。

CO_2排出量を削減する方策とは

推進事業では以下のような取り組みが実施されています。

①モーダルシフト
輸送モードをトラックから海運や鉄道に転換することで、CO_2排出量を削減するとともに、道路渋滞の緩和等の効果もあります。

②共同輸配送
複数荷主の荷物を一緒に運ぶことで輸送効率の向上を図ります。最適な輸送経路や荷物の最適な積み合わせによって車両台数を削減するなど、ITソリューションの適用が期待される分野です。

③拠点集約化
拠点を集約することで輸送距離の削減、物流コストの低減を図ります。

All Rights Reserved, Copyright © Fujitsu Research Institute 2006